

## 第52回国立大学図書館協会総会の開催

第52回国立大学図書館協会総会が、名古屋大学附属図書館を当番大学として、さる6月30日、名古屋大学豊田講堂で開催され、97大学・機関から関係者が出席して協議などが行われた。

昨年4月に新しい会則の下で国立大学図書館協会と改称してから1周年を迎え、今回は新協会として2度目の総会である。

開会式では、西郷和彦・国立大学図書館協会会長の開会の辞に続き、平野眞一・名古屋大学総長、伊藤義人・名古屋大学附属図書館長の挨拶があった。

議事に入り、まず昨年7月の第51回総会以降の本協会の活動について一般経過報告が行われた。

続いて協議事項として、(1) 理事選出について、(2) 監事選出について、(3) 平成16年度決算報告・同監査報告について、(4) 平成17年度事業計画(案)について、(5) 平成17年度予算(案)について、などが協議された。



また、文部科学省の松川憲行・研究振興局情報課長から所管事項として、(1) 当面の学術情報推進施策、(2) 平成18年度概算要求、(3) 学術情報流通施策、(4) 平成16年度大学図書館実態調査結果報告などの説明があった。

引き続き、平成17年度国立大学図書館協会賞表彰式が行われ、「東北大学生のための情報探索の基礎知識」の制作刊行活動とそれを活用した全学教育科目支援の活動における功績により、東北大学附属図書館に表彰状と記念品が授与された。

午後には、昨年度に引き続き、ワークショップが行われ、A. 今後の図書館経営について、B. 電子ジャーナルなどのデジタルコンテンツに関する諸課題について、C. NACSIS-CAT/ILLの課題解決に向けて、の3項目をテーマとして取り上げ、活発な議論が展開された。

総まとめの全体会議では、各ワークショップでの協議内容が簡単に紹介され、そのうちNACSIS-CAT/ILLの課題解決に向けては、一定の方向性が決議されたとの報告が了承された。